

「ぼくの大好きな自転車」

銀賞 平第四小学校 3年 鈴木 龍斗

ぼくは、自転車が大好きだ。だから、ぼくは自転車に気をつけたいと思う。

ぼくは、交通教室で自転車ののり方について教えてもらったことがある。その時、自転車のじこについても教えてもらった。ぼくは、自転車のじこで大きいけがをすることをしった。

まず、自分のみをまもるためにヘルメットをかぶることがたいせつだ。ヘルメットは頭をまもってくれる。ぼくの兄は、ヘルメットをかぶっていなかったので、頭をうって頭から血が出てしまった。ぼくは、一回自転車からおこちたことがある。ぼくは、その時ヘルメットをかぶっていた。だからむきずですんだ。ヘルメットをかぶっていない人とヘルメットをかぶっている人ではぜったいにヘルメットをかぶっているほうが安全だ。

次に、ぼくは、のるばしょにあったのり方をすることがたいせつだと思う。たとえば、おうだんほどうやほどうなどでは自転車からおりて手でおしてすすむことがたいせつだと思う。ほどうでは人も歩いているのでよけいにきをつけるひつようがある。それは自分だけではなくほかの人をけがさせてしまうかのうせいがあるからだ。もし、ぼくののり方で人をけがさせたらたいへんだ。また、自転車はあるく時とちがって左通行だ。それはまちがえないようにしたいと思う。自分のけがだけではなく、まわりをみて回りの人も安全でいられるような自転車のうんてんをしたいと思う。

さいごに、ぼくは自転車にのるまえにてんけんがひつようだと思う。ぼくは、交通教室で教えてもらった「ぶたはしゃべる」でてんけんしている。「ぶ」はブレーキ。前後ともよくきくかたしかめる。「た」はタイヤ。空気が十分に入っているか、すりへっていないかたしかめる。「は」はんしゃざい。よごれたり、こわれたりしてないかたしかめる。「しゃ」は車体。きれつやさびははっせいしていないか、ハンドルやサドルにがたつきはないかたしかめる。「べる」はベル。よくなるかたしかめる。安全にのるためにてんけんはじゅう要だと思う。

このようなことを大切に自転車にのりたいと思う。自転車は頭をまもるためにヘルメットをかぶってのること。自転車はのるばしょにあったのり方をすること。自転車にのる前にてんけんをすること。このことをまもってのればこれからも安全にのることができると思う。また、まわりの人にけがをさせないようにうんてんできると思う。ぼくは、自転車が大好きだから自転車のルールをまもってこれからものりたいと思う。このぼくの考えがみんなにひろがってほしい。

事故のない世界をめざして

銀賞 中央台南小学校 3年 平野 珠

夏休み前の六月はじめ、パパととっくんして自転車にのれるようになりました。足で走るよりも速くグングン前に進んで、私はとてもうれしくて、それから毎日のように自転車にのって遊んでいます。

でも、夏休みに入ってから八月はとても暑い日がつづいて、ヘルメットをかぶると頭からたくさんの汗がでてきて気持ち悪いんです。だから、ちょっとだけ私はヘルメットをはずして自転車をこぎました。すると、たくさんの風を切って走る私はまるで生まれかわったみたいに気持ちよくなりました。

だけどある日、それをパパに見つかって、私はすごくおこられました。いつもはやさしくてふざけているパパが、目を大きくして大きな声でこういいました。

「どうして約束を守れないの。車にひかれてしまったら、きみは頭をうって死んでしまうんだよ。そしたらママが悲しむでしょう。」

私は、そんな大きなことは考えていなかったのですが、何もへんじができなくて思わずだまりこみました。

すると、その様子を見てパパが私の手をとって今ど一緒に出かけようといいました。

八月十三日、もうしょという暑さの中、私たち家ぞくはあるおうちに行きました。今年なくなった人は「新ぼん」と言って初めての夏をむかえることになり、げんかんには、とうろうがありました。「おせんこうをあげるよ。」

とパパに言われて家に上がると、小さな男の子のしゃしんがかざってありました。しゃしんのまわりには本やおもちゃもあって、その男の子がよく遊んでいたものだとききました。

「どうして死んじゃったの。」とパパにきくとパパに「自転車にのっていて車にひかれてしまったんだ。きちんとヘルメットをかぶっていたけど大きな車だったから、頭を強く打ったんだ。」

その子のママは下を向いたままずっと泣いてました。これがわたしだったら、と思うときゅうにこわくなりパパの手をぎゅっつつかみました。

その日以来、私はかならずヘルメットをつけて自転車にのっています。「車には気をつけてね。」「かならず一ど止まるんだよ。」と、いつもは口うるさく思ってしまうパパやママの言葉にも、「守ります。」とへん事しています。

どうしたら交つう事こはなくなるのでしょうか。自転車にのる方が十分気をつけていても、車には力ではかかないません。私たち子どもがどんなに注意していてもふせぎようのない事こか？自分の家ぞくが事こにあったら、と相手の立場になって一緒に考えませんか？だれもかなしまない、事このない世界をめざして。

こうつうあんぜん

銅賞 中央台北小学校 1年 古内 愛奈

わたしは、しがつからしょうがっこうにかよっています。おにいさんやおねえさんたちといっしょにどうこうしています。おにいさんたちは、どうろをわたるときには、みぎ、ひだり、みぎをしつかりとみえています。わたしは、まだどうろをわたることがしんばいなきもちになります。くるまがでてきたら、どうしようかな、だいじょうぶかなとおもうとどうろをわたるのがこわくなります。いつも、どうろをわたろうとみぎひだりみてもなかなかわたることができませんでした。そのときおにいさんたちは、みぎ、ひだり、みぎをよくみて、わたしのことをいっしょにどうろをわたってくれます。わたしもあんしんしてわたることができます。おおきくてをあげて、ほかのひとやうんてんしゅさんから、よくみえるようにてをあげています。おおきくてをあげると、みんなからよくわたしのことがみえるのでたいせつだとおもいます。これからもおおきくてをあげて、みぎ、ひだり、みぎをよくみてから、どうろをわたろうとおもいます。

げこうのときは、一ねんせいのももだちといっしょにかえります。はじめは、二れつにならんでかえります。だけど、ともだちのひとりがはしったり、あそんだりすると、れつがばらばらになってしまいます。わたしがちゃんとならんでかえろうといっても、ともだちがいてもみんなは、ならんでかえることができなくなってしまいます。ばらばらになると、どうろにはみでてしまったりするのでとてもあぶないとおもいます。わたしかえるみちには、とてもくるまがたくさんとおるおおきなどうろがあります。ばらばらになってあるくと、うんてんしゅさんからみえにくいのでとてもあぶないとおもいます。二がっきになって、みんなとかえるときには、みんなでまとまってどうろをわたれるようにしたいです。

らいねんには、わたしは、二ねんせいになります。いまは、まだどうろをわたることやならんでかえるのがたいへんです。しっかりとこうつうあんぜんについてべんきょうしていきたいです。そして、らいねんには、しっかりした二ねんせいになって、一ねんせいにもいろいろおしえてあげたいです。

「ぼくのこうつうあんぜん」

銅 賞 植田小学校 1年 根本 大嗣

こうつうあんぜんってなんだろう？とかんがえてみました。ぼくがかんがえたこうつうあんぜんはみんながあんぜんにもくてきちまでいけるようにすることです。

ぼくは、まいにちしょうがっこうにあるいてかよっているの、どうろをあるくときにはくるまにきをつけること、おうだんほどうをわたるときにはみぎ・ひだり・みぎをみてわたれるのをかくにんしててをあげてわたること、ほどうをあるくこと、しんごうきがあおでもきゅうにとびださないことをきをつけたいとおもいます。じてんしゃにものるので、そのときはまわりのひとにきをつけてすびーどをだしすぎないようにすることをきをつけたいです。

おとうさんやおかあさんはじどうしゃのうんてんをするので、じこにならないようにきをつけてほしいです。にゅーすで、ぼくたちくらいのしょうがくせいのがれつにとらっくがぶつかってしまったのをみました。にゅーすでは、とらっくのうんてんしゅさんはおさけをのんでうんてんしていたそうです。おとうさんもおかあさんも

「おさけをのんだら、くるまのうんてんはしてはいけないよ」

といていたので、じこになってしまうからだとわかりました。じこにあったおともだちはけがをしたり、しんでしまったこもいたようです。しんでしまうと、おうちのひとやせんせい、おともだちにあえなくなってしまう。あそぶこともおいしいごはんを食べることもべんきょうすることもできなくなってしまいます。だから、こうつうじこがなくなればいいなあとおもいました。

こうつうじこをなくすためにたいせつなことは、くるまをうんてんするひともあるいているひとも、ひとりひとりがまわりをよくみてゆずりあいのきもちをもつことだとおもいます。そうすれば、こうつうじこがなくなってみんながあんしんして、あんぜんにもくてきちまでいけるようになるとおもいます。ぼくもどうろをあるくときはまわりをよくみてきをつけたいとおもいます。

こうつうあんぜんは、みんながたのしくげんきにせいかつするためにとてもたいせつなことです。ぼくも、じぶんやまわりのひとをまもるためにこうつうあんぜんのたいせつさをわすれないで、かぞくやおともだちとそのはなしをしたいとおもいます。こうつうじこがなくなるひがはやくくるといいです。

よびかけたいこと

銅 賞 藤原小学校 2年 芳賀 暖

れいわ三年六月二十八日月曜日の午後に、千ばけん八ちまた市で下校中のじどうのれつに、トラックがつっこみ五人がはねられるじこがおきました。

そのじこでは、じどう五人中二人がなくなり、三人はじゅうけいしょうをおいました。トラックをうんでんしていた人は、おさけをのんでいてうんでんできるじょうたいではありませんでした。

ぼくは、このじこをテレビのニュースで知って、とてもかなしい気持ちになりました。どうしてかという、このじこでなくなった小学生にぼくと同じ二年生がいたからです。

ぼくは、とう校するとき十一人でとう校します。一年生が二人、二年生が三人、三年生が四人、六年生が二人です。

とう校するときは、左がわを歩き、歩どうからはみ出ないように気をつけています。

歩くとき、おしゃべりをしたり、ふざけたりしないように気をつけています。

とう校するじかんたいは、通きんする自どう車やトラック、ダンプが多くとてもスピードを出しています。

ある日、ぼくたちがとう校しているとき、トラックがもうスピードではしりさりました。もしもぶつかっていたと思うと、とてもこわいです。ぶつからなくて本とうによかったと思いました。

ぼくは、自どう車がすきでしくみを本やどうがでしらべています。むかしよりも今は、自どう車のせいのがとてもよくなっています。むかしの自どう車は、あんぜんそうちがあまりありませんでした。今は自どう車がふえて、交通じこが多くなっているから、あんぜんそうちがつけられています。

あんぜんそうちの中には、自どうブレーキとクルーズコントロールがあります。自どうブレーキは、人やものをかんちして、けいこく音をならしてげんそくしてくれます。クルーズコントロールは、こうそくどうろでやくだちます。前の車とのきよりを一ていにたもってくれます。

ぼくがよびかけたいことは、今の自どう車はとてもせいのがよいけれど、自どう車のせいのがだけにたよってはいけないと思います。みんなが思いやりをもち、交通ルールをまもって、交通じこがへればよいと思います。

こう通じこはキレイだ

佳 作 郷ヶ丘小学校 2年 増子 海空

ぼくが、一年生の時のじきゅうそう大会のことです。

じきゅうそう大会のときなぜかママは、きてくれませんでした。ずっとまっていたけどはしたあともいませんでした。

そして、ぼくは、ここでこう思いました。

「ママ、こなかったなあ。」

いえにかえるときママがいて、こう言いました。

「後ろの車がぶつかってきてじこにあったから、行けなかったんだよ。」
と。

ぼくは、ママがじこにあってけがをしたから、びっくりしてないてしまいました。

後ろの車がよそ見をしないでママの車についてつしななければ、じきゅうそう大会にもきてもらえなし、ママもけがをしなかったのになと思います。ママが生きててよかったです。

ニュースでスピードをあげて、よそ見うんてんをして、ぼくと同い年くらいの子がしんでしまったニュースを見たことがあります。それを見て、こうつうじこは、本とうにこわいと思います。ちらっとよそ見をするだけで人のいのちが、一しゅんでなくなってしまうことを、しりました。

ぼくも、学校に行くときやかえりみち、ふざけたりして、先生や六年生にちゅういされたことがあります。ふざけたりして、友だちや、自分のいのちをなくしてしまうかもしれないことを、こんかいこのさく文を書いて、ぼくは、考えさせられました。

だから、ぼくは、とう下校しているとき、ふざけないで、ちゃんと歩くようにしたいと思います。

こうつうじこになったら、ぶつけた方も、ぶつけられた方も、すごくいやな気持ちになります。

これからとう下校を気をつけるので、車のうんてんをしてる人は、よそ見をしないで、スピードをださないで、あんぜんうんてんしてほしいです。

うんてんするなら気をつけて

佳 作 草野小学校 2年 新妻 佳宗

ぼくは、よく家ぞくに「チョロチョロするな、車のめいわくだ。」とおこられます。ぼくは、ちゅう車じょうではしてはいけないとわかっているのですが、お店につくとついついたのしくなってお母さんにいわれたことをわすれてしまうのです。それで何とかあぶない目にあいました。車のうんてん手の人もびっくりしていました。そのあと、お母さんにげんこつをされておこられます。ぼくは、毎回わすれてしまい、同じことをくりかえしてしまいます。

ある日のことです。車の中でお母さんに、

「車はきゅうにはとまれないのだから、はしっちゃだめだよ。」

といつものようにちゅういされていました。ぼくは、うしろのせきにすわって足をぷらぷらさせながらすぎていく田んぼのけ色を見て聞いていました。そしたらきゅうに、車がとまりました。きゅうにとまったので、ぼくは、前のせきにぶつかりました。お母さんが言いました。

「ほらね、車はきゅうにとまれないの。話聞いてないでしょ。」

お母さんは、やれやれとまた車を走らせます。ぼくは、かんがえました。車がきゅうにとまると、今のようにうんてんしている人もいたい思いをするんだな、と。ちゅう車じょうでは、ゆっくりうんてんする車もいれば、スピードを出している車もいます。スピードを出している車の前でチョロチョロしたら、きっと車はとまれず、ぼくをひいてしまい、ぼくはとてもいたい思いをするでしょう。そうならないためにも、今どからは、車のあるところでは、ふざけたり、走ったりしないようにしようと思います。ぼくには、きょ年生まれたおとうとがいます。さいきん、あるけるようになりましたが、ぼくとおなじように、チョロチョロしています。ぼくは、車からおりるとおとうとの手をつなぐようにしています。何もわからないおとうとが、一人でどこかへ行ってひかれたら、かなしいし、たいへんだからです。

うんてんする大人のみなさん、ちゅう車じょうは、ひるでもうすぐらくして、見えずらいけれども、ぼくたちのように、じゅうぶんにちゅういしてください。かなしい思いをする人が一人でも少なくなりますように――。

交通事こについて

佳 作 長倉小学校 3年 浜 百花

夏休みの前に、ニュースで登校はんの小学生のれつに、よっぱらったうんてんしゅさんがしょうとつした事こをテレビで見ました。登校する時は、とても大きい道路を通ったりするので、とてもこわくなりました。わたし達と同じ年の人や、お友だちが死んでしまうことはかわいそうです。道路を歩いてる時は、車の前や後ろを横ぎったり、走ったりしないようにしたいと思います。大人の人たちもスピードを出しすぎたり、車をうんてんしている時は、お酒をのみながらうんてんしたりなど、しないでほしいです。わたしも、気をつけたいと思います。高れいしゃの人も気をつけてほしいと思います。また、コンビニやお店などへの車のしょうとつ事こもあります。それもいんしゅうんてんやスマホをしている人が起こしている事こだとニュースでやっています。もちろん、歩きスマホも同じです。

車にのっている時、となりを自てん車やバイクが走っていると、ドキドキする時があります。後ろから、車が来ていてもまん中を走っている時があって、あぶないです。

わたしのおばあちゃんの車は、マニュアル車といってきゅうに発しんしたり、バックしたりしないそうです。

よく分かりませんが、左足でクラッチというペダルをふまないとエンジンも発しんも、できないらしいです。

さいきんは、お年よりの方々のコンビニや、びょういんのちゅう車場で、事こが多いのは、うんてんしやすい車だそうです。

とても楽しいのですが、かんたんなのは、それだけきけんがあると思います。

交通事こは、スピードをだしたり、おいこしたりするのが一番多いですが、おいこしても、すぐしん号で止まったりするので、とう着する時間はそんなにちがわないと思います。

車も、さい近は、しょうとつぼう止や、いろいろなそうちがついている車がでてきていますが、一人一人安全うんてんで、交通ルールを、まもってくれればいいと思います。よくおばあちゃんが言っています。

車は年よりには大事なもので、一人ですんでいると、買いものや、びょういんに行くときにもべんりで、一日中一人で家にいても、車があると、安心だと言っています。

年よりではない人も気をつけてほしいと思います。うんてん中の時、けいたい電話がなっても、うんてん中にけいたいをさわったりしないでほしいです。歩きスマホ、いんしゅうんてん、あとは、あおりうんてんです。あおりうんてんは、前の車を左、右とおいかけてくり返すことを、あおりうんてんと言います。ほかに、前の車が、わざと止まって、後ろの車が、止まっているのが分からなくてぶつかってしまう事こもあります。

前の車がわざと急に止まり、後ろの車がすごいことになっていたそうです。前の車は、ほけん金という物が目当てだったそうです。もうこういうじこはおこってほしくないです。

だからおうちの人、お年より、友だちにも、じこにはあってほしくないです。

しょうとつじこではん人が死んでしまっただけけんがかいけつしなかつたりすることもあります。

ボールの遊びで、交通じこにあわないでほしいと先生もいっています。おうだん歩道の事このけんもあります。

おうだん歩道は、赤か青か見ないと事こになります。右も左も見ないですすんだら事このもとです。おうちの人の言うこともまもらないと、事こにあいます。

道ろは車がいっぱい通るのでおうだんほどうをわたる時は右左を見ましょう。